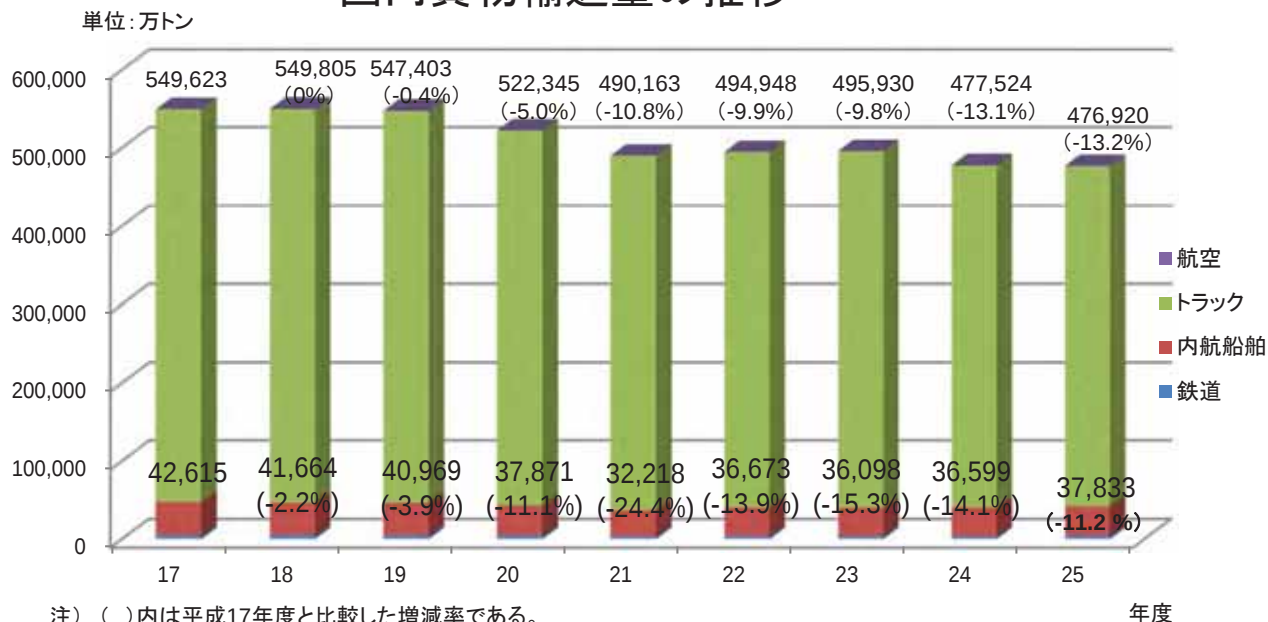


国内貨物輸送の推移と内航海運の状況

国内貨物の輸送トン数は、長期的には減少傾向にあり、平成17年度と平成25年度を比較すると、約13%減少している（内航船舶では、約11%の減少となっている。）。

国内貨物輸送量の推移



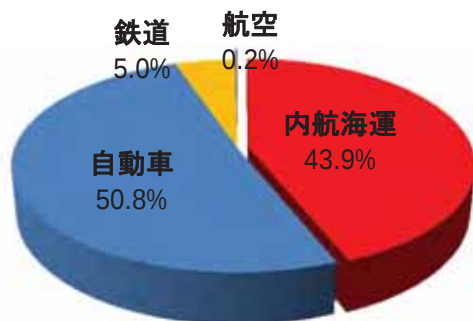
内航海運は、経済効率性が高く環境保全の面でも優れた輸送特性を有しており、トンキロ(※)ベースで国内物流の約4割、セメントや石油製品等の産業基礎物質輸送の約8割を担う、我が国の経済・国民生活を支える基幹的な輸送機関である。

一方で、近年、世界経済のグローバル化の加速や海外への生産拠点の移転に伴う国内産業構造の変化等を受け、輸送需要の低迷が長期化している。また、船舶の老朽化が急速に進んでおり、今後も需要の変化に的確に対応しつつ安定輸送を供給するためには、輸送の効率化を進めながら船舶の代替建造を促進していくことが重要な課題となっている。

なお、輸送の効率化については、地球温暖化の防止及び低炭素型の物流体系の構築を図る観点からもトラック輸送から内航海運等へのモーダルシフトが推進されているところである。

※トンキロとは、輸送した貨物の重量(トン)に輸送した距離をかけたもので、輸送活動の大きさを表すもの。

平成25年度貨物輸送量(トンキロ)の分担率



品目別(トンキロ)の分担率

